



品川CS FUJIMIDAI

学校だより

品川区立富士見台中学校



令和8年度6月号

(令和8年6月1日)

<教育目標> 自己実現を可能にする生徒の育成

『運動会感想記』

校長 石黒 晋

5月の23日(土)、肌寒い中、今年も二大行事の一つである運動会が盛大に行われました。全学年3クラスとなり、各競技対戦する相手も増え、活気あふれる運動会となりました。当日は、延べ600人以上の保護者・地域の方々に来校していただきました。狭い校庭の為、観戦等でご不便をおかけしましたが、混乱もなくグラウンドに集う方々の「笑顔溢れる1日」となりました。

全競技を通して感じたことは、個人競技や学年全体種目において、生徒たちがどのような状況であっても最後まで諦めない姿を見せてくれたことです。今回は、学年種目と全体種目「演技・演武」に絞って書きました。

【学年種目】

本校の団体種目は各学年とも2種目。全員リレーと学年種目です。走ることを中心とした運動会の個人種目では、運動能力の差で優劣がついてしまうことがとても多いのが現状です。団体競技においても、個人と同様な部分もありますが、種目の特性を競技者全員が理解し、技術的な部分の練習を積んで行けば、差はそれなりに埋まっていく場合もあります。参加者一人一人が、自分の能力を最大限に発揮でき、競技者全員の歩調が合い、失敗が無ければ、大逆転もあるのも事実です。また、何が起こるかがわからないのも団体種目の醍醐味のひとつです。実際、今年の運動会においても、運動会当日だけ勝つことのできなかつた学級もあったようです。運動会の団体競技は、結果よりも過程がとても重要だと私は思っています。課題に対してクラス全員で考え、作戦を立て、コツコツと練習を繰り返しながら、どう取り組んできたかが重要です。

7年生は、当初全く歩調が合わず、飛ぶことができなかったクラスもあったようです。練習を重ねていくうちに少しずつではあるが回数を重ねることができたようです。練習時に思ったより飛ぶことができ、拍手が起こっていたことが印象的でした。8年生は、一致団結していかに諦めずに耐えるかが勝負の鍵です。どの対戦も一進一退の攻防が続き見応えある対戦でした。それぞれの表情がとてもまぶしかったです。9年生は、クラスの特徴を捉え、それぞれの戦法で臨んだレースでした。ちょっとしたリズムのずれが、順位を左右する難しく面白い競技です。一生懸命競技している生徒に声援をかけながら並走している担任の姿が、とても眩しく見えました。

どの学年も結果がどうあれ、競技終了後の表情は、やり切った気持ちと、ちょっと悔しい気持ちが入り混じっているようでした。

【団体演技】

本校のメイン種目のひとつです。中学生における「演技・演武」種目は運動能力だけで図ることのできない種目です。点数や優劣が付かない種目であることはもちろんですが、演技者一人一人の意識や取組む姿勢の差で大きく変化します。演技者が動きをマスターしていることが最低限条件ですが、個々の姿勢と意識で、演技者全員が1つにならなければ高い完成度は生まれません。入場のコールから退場し終えたところまで、一人一人の頭先から指先に至るまでの意識があるかないかで決まります。全体の意識が合えば、1+1が、10にも100にもなることが出来る種目です。

また、出来不出来は演技者が判断するものではなく、第三者(観客)が判断するのも事実です。演技者は、どれだけ作品に対して正面から向き合い、日々、意識をもって積み重ねてきたかが重要な



鍵となります。当日のみの成功はほとんど無いと思っています。

今年も、本番まであえて見ることはなく当日を迎えました。『元気な』、『凛とした』、『優美な』とそれぞれ異なった印象を受けた『演技・演武』でした。

初めて観覧した方々に、どのように映ったのかは興味深いものがあります。何日もかけて見てきた、携わってきた生徒たちや学年の先生たちは、それまでの幾つかのドラマをつぶさに見ているため、思いも強く、主観的に物事を見てしまいがちです。保護者・地域の皆さん方には演武・演技種目は、どのように映ったでしょうか。心をひきつけることが出来た演武・演技であったなら、嬉しいかぎりです

二つ大きな団体種目を取り上げましたが、何事にも「目的や目標に一生懸命に向かう姿」は良いものです。

来賓席で観戦していた地域の方が、「生徒さん皆さんいい顔していますね」という言葉を頂いた嬉しい1日でした。

クラス旗



『改めて考えてみるウェルビーイング』

校長 石黒 晋

本校で「ウェルビーイング」という言葉が出始めて3年がすぎ、昨年度から重点校として、「ウェルビーイング教育」を学校全体で取組んでいます。

今では当たり前のように、日々の生活や学校行事等において、生徒たちからもウェルビーイングという言葉が多く聞かえてきます。認知されていることはとても良い傾向ではありますが、改めて考えて行動していかなければならないことがあります。

具体的には、ウェルビーイングカードで例えれば、『わたし(I)』のウェルビーイングカードを追求しすぎるあまり、『わたしたち(We)』や『みんな(Society)』、もしかすると『あらゆるもの(Universe)』よりも、個人の心の中で『わたし(I)』だけが独り勝ちしてしまい、様々な学校生活に影響を及ぼしていつてしまっていることです。

『(I)、(We)、(Society)、(Universe)』のそれぞれは、比較するものでも優劣をつけるものでもありません。どれもかけがえのないものです。『わたし(I)』のウェルビーイングが達成すれば、他の事はどうでもよいという思考になってしまえば困ります。まわりから見れば、ただのわがまま、自己中心的な考えに見えるからです。

人それぞれの幸せを感じるベクトルは異なります。社会(学校も一つの社会)は、人々が集まってできたコミュニティです。学校という比較的小さな社会においても、いかに共生(異なる存在どうしが対立や支配ではなく、互いの違いを認め合いながら、ともに生きる関係やあり方)していくことができるかが鍵だと言うことを忘れてはいけません。互いのことを考え、どのようにしていくことが最善なのか、改めて考え行動し実行していくことが必要だと思っています。

また、周囲が面倒だから自分自身に火の粉が降りかかってこなければ関係ないという態度をとっていくことも、『私(I)』を重視する考えを増長していき、社会(学校)全体を麻痺させていきます。

何を重視するかは、状況等によっても異なりますが、広い視野で物事を見て、常に自分以外のことを考え、思いやりの気持ちを持ち続けて、社会を形成する一員になってほしいと思っています。